

現行計画の検証作業について

目次

1. 施策検証を行う目的・基本的な考え方	1
2. 現行計画書の体系と構成	3
3. 施策検証シート	5
3-1. 各項目の記載内容	5
3-2. 課題の考え方	7
3-2. 各項目に対応する課題の抽出(例)	8
4. 今後の検証作業スケジュール	9

© 2016. For information, contact Deloitte Touche Tohmatsu LLC.

1. 施策検証を行う目的・基本的な考え方 戦略的な総合計画のポイント

次期計画を戦略的な計画とするための条件

- ・選択と集中
(何をし、何をしないか)

➡

主な取組(事業)の明確化
(計画期間における事業の追加・見直しを考慮)
- ・財政状況(財源)の反映

➡

財政見通しを反映させた事業の実施時期の検討
- ・達成目標の設定
(いつまでに、どの程度)

➡

指標の設定、目標値の設定
- ・目標を達成するための合理的な手段

➡

施策に関連する事業の整理
(わかりやすい計画書)

1. 施策検証を行う目的・基本的な考え方

施策の検証の目的

① アカウンタビリティ(説明責任)

- ・市民参画を推進するにあたっての基礎資料
→進捗状況の共有により建設的な議論につながる。さらに、市民へのわかりやすい情報開示

② 次の計画立案のため現状把握

- ・現行計画の成果と課題を明らかにし、その対策を見極めたうえで次期計画を策定
- ・施策の目的、目標(最終到達点)に対する成果(進捗状況)の把握
- ・重要な課題(優先的に取り組むべき課題)、解決できていない課題、潜在的な課題の把握
- ・成果と課題を把握したうえで、重点的に展開(予算・人員等を投資)すべき施策の検討

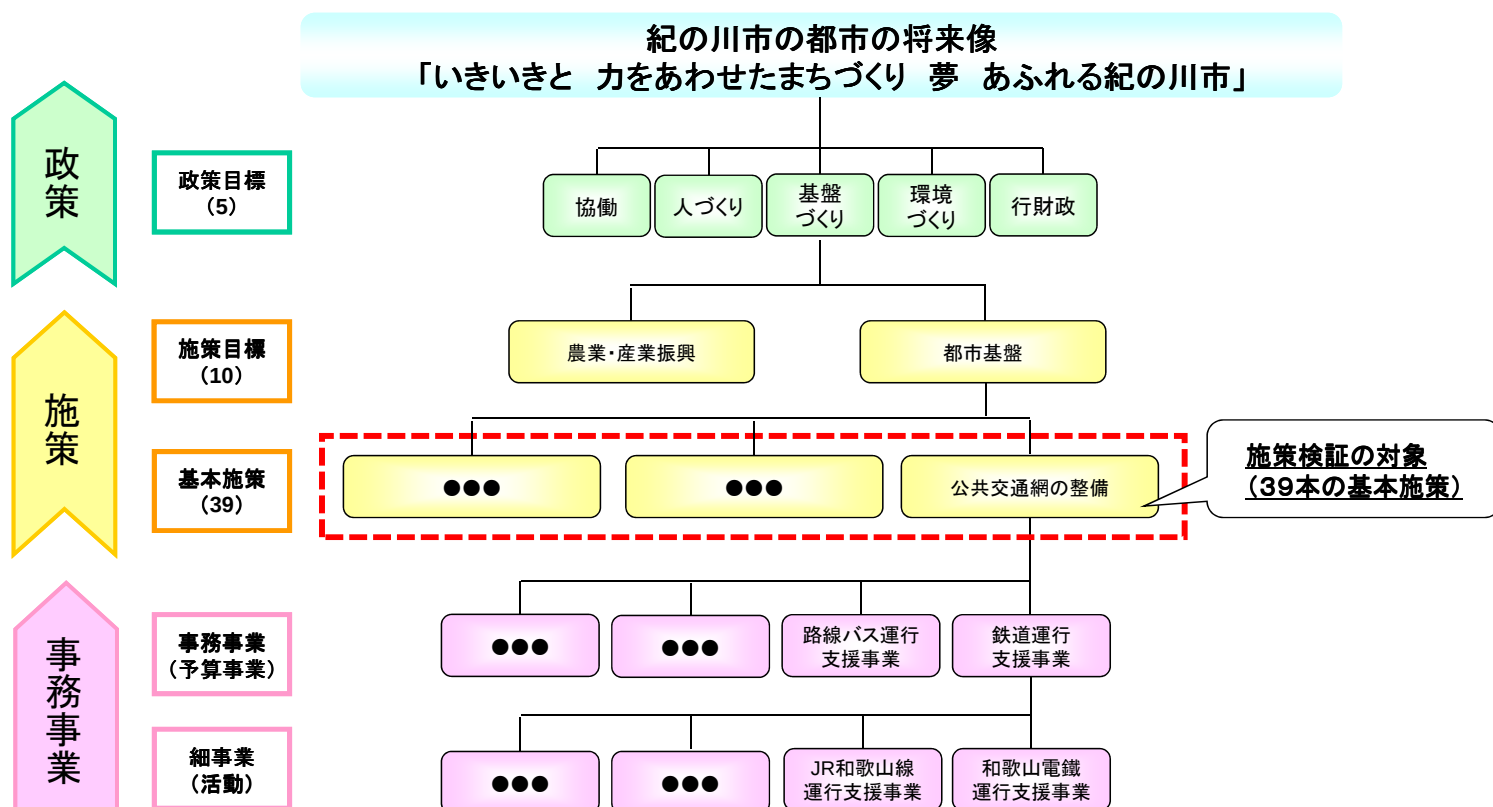
【前提として】

- ・紀の川市全体で取り組んでいきます。

→多様な市民参画方法を取り入れ、市民の皆さまを代表する審議会と行政とが一体となって、より良い「第2次紀の川市長期総合計画」を策定するため、現行計画の検証作業を実施します。

2. 現行計画の体系と構成

検証の階層の理解



2. 現行計画の体系と構成

現行の総合計画の構成

基本計画

基本施策
3-1-2

公共交通網の整備

●現状と課題

○市民意識調査によると「公共交通機関の整備・利用促進」の取り組みについては「もっとやるべき」との意向が高まっているものの、公共交通機関を利用している人の割合は低い結果となっています。

○コミュニティバス等の年間利用者数は増加傾向にあるものの施策指標の中間目標値にはおおよそ、進捗率においては、道路の新設や新庁舎完成などの社会状況の変化に対応して路線や運行形態を見直す必要があります。

○JR和歌山線と和歌山電鐵貴志川線の乗降客数は、概ね現状維持の状況にありますが、今後の人口減少や少子高齢化の進展に伴い、公共交通機関の必要性は増加すると考えられます。また、和歌山電鐵貴志川線への支援策は平成27年度末が期限となっていることから、平成28年度以降の新たな支援策について、和歌山市、和歌山県と緊密な連携を図り、検討が必要です。

○大阪方面への通勤・通学者に対する公共交通サービスの拡充が必要となっています。

●基本的な考え方

○本市の主要な公共交通である、JR和歌山線、和歌山電鐵貴志川線、路線バスは和歌山、大阪方面等への通勤、通学や日常生活を支える貴重な交通手段として、運行本数の維持や利便性の向上に努めるとともに、利用率の向上に向けた広報や対策を推進します。

○公共交通不便地域を対象とした「コミュニティバス」「紀の川市地域巡回バス」については、分庁舎方式から市庁舎への一体化に伴い、路線の見直しや運行形態の見直しを行い、市民サービスの維持増進に努めるとともに、利用率の向上に向けた広報や対策を推進します。

○大阪方面との通勤や観光交流の利便性向上が本市の大きな課題となっていることから、今後の利便性向上対策について、研究会や社会実験などにより方向性の検討を行います。

●目標が達成された姿

公共交通網が維持され、市民や観光交流客に対して適正な移動サービスが提供されています。

●目標実現のための取り組み

取り組み方針	取り組み事業
公共交通機関の利便性向上対策・利用率向上対策の推進 鉄道や路線バスを利用する通勤、通学や日常生活の利便性を確保するためにサービスの維持を図るとともに、利便性や利用率向上対策を推進します。 大阪方面への通勤、通学の利便性向上や観光交流の拡大を促すために、研究や社会実験について検討を行います。	鉄道運行支援事業 貴志川線運営補助事業 路線バス運行補助事業 公共交通運行支援事業
コミュニティバスの運行 公共施設や公益施設の利用など、主に市内での移動を必要とする交通弱者の利便性向上のためにコミュニティバスや地域巡回バスの運行を継続します。また、路線や運行形態については新庁舎完成を契機として一部見直しを行います。	コミュニティバス運行補助事業 地域巡回バス運行補助事業

●成果指標

指標	現状値 平成23年度	目標値 平成29年度
コミュニティバス等の年間利用者数	139,235人	172,000人
和歌山電鐵貴志川線の年間利用者数	2,182,000人	2,500,000人

基本計画

4

3. 施策検証シート

3-1. 各項目の記載内容

1. 施策の基本情報									
基本施策名		3-1-2		公共交通網の整備					
政策目標		3 基盤づくり 快適で活気があるまち							
施策目標		3-1 都市基盤 道路・交通や住環境などが整い、日常生活が便利で快適である							
担当部署		企画部			関連課		企画調整課		

2. 成果指標による進捗確認											
No	指標 (◎は総合計画の目標指標)	単位	実績推移					目標値	ベンチ マーク	指標の分析結果	
			H23	H24	H25	H26	H27	H29			
①	◎ コミュニティバス等の年間利用者数	目標	人						172,000		①運行路線の改正により、利便性が高まり利用者数が増加したものと思われます。 ②H27年度は海外ツアー客が好調で利用者数が増加したものと思われます。 ③国体や高野山開祖1200年のイベント等があり、利用者数が増加したものと思われます。 ④インバウンド客の増加に伴い、貴志駅での乗降客が増加したものと思われます。
		実績	人	139,235	139,590	138,724	130,769	143,886			
		達成率	%	81.0	81.2	80.7	76.0	83.7			
②	◎ 和歌山電鐵貴志川線の年間利用者数	目標	千人						2,500		
		実績	千人	2,182	2,166	2,298	2,279	2,320			
		達成率	%	87.3							
③	参考 JR和歌山線の紀の川市内の駅における年間利用者数	目標	千人							サンプル	
		実績	千人								
		達成率	%								
④	参考 和歌山電鐵貴志川線の紀の川市内の駅における年間利用者数	目標	千人								
		実績	千人	907	899	960	950	982			
		達成率	%								
⑤		目標									
		実績									
		達成率									

3. 市民のニーズ・動向	
市民の ニーズ・動向 (意識調査結果)	・市民意識調査での「公共交通機関の充実」の満足度は16.4%と低く、不満足も48.7%と高くなっているが、重要度は27.3%と市民ニーズが高いことが示されています。 ・市民意識調査での「公共交通機関を利用しない理由として、「他の交通手段（自家用車など）」が85%を占めています。その他には「便数が少ない」、「目的地まで時間がかかる」等が挙げられています。

<記載責任者>

- 策定作業員(キーパーソン) & 事務担当者
- 策定作業班長(各課長)
- 本部員(各部長)

1. 施策の基本情報

- 第1次紀の川市長期総合計画後期基本計画に掲げている「基本施策」「政策目標」「施策目標」を記載しています。
- 「主担当部」は基本施策を所管している部の名称を、「関連課」は基本施策を推進する上で連携が必要な課を記載しています。

2. 成果指標による進捗確認

- 第1次紀の川市長期総合計画後期基本計画の各施策に掲げている成果指標を記載(計画に掲載している成果指標は「◎」を付けています)。
- 第1次紀の川市長期総合計画後期基本計画の各施策に掲げている成果指標以外で進捗確認に必要な指標を記載しています。
- 整理した指標についてH23～H27の実績値と計画書に掲載しているH23の実績値及びH29の目標値、必要に応じてベンチマーク(国・県のデータや他団体のデータなど)を記載しています。
- 指標の数値(データ)に基づいて、何をどこまで達成できているかを確認し、施策の状況を記載しています。

3. 市民のニーズ・動向

- 日常業務を行う中で耳にする市民の声や市民意識調査結果などの情報に基づいて、各施策における市民の関心や意向について整理し、記載しています。

5

3.施策検証シート

3-1.各項目の記載内容

<記載責任者>

策定作業員(キーパーソン) & 事務担当者

策定作業班長(各課長)

本部員(各部長)

4.取り組み方針の進捗確認				
No	取り組み方針	具体的な取り組み内容	取り組みの成果	進捗度
①	公共交通機関の利便性向上対策・利用率向上対策の推進	・和歌山線活性化検討委員会、貴志川線運営委員会、貴志川線運営協議会に参加し、鉄道の利用率向上を図る事業を実施しました。 ・貴志川線が継続的に運行出来るように、必要な支援を行いました。 ・大阪方面へのアクセスを維持するため、路線バス粉河熊取線に対し支援を行いました。	・紀の川市内の駅での鉄道利用者数が増加しました。(H23年度:2,872千人→H27年度:3,096千人) ・路線バス粉河熊取線の年間利用者数が増加しました。(H23年度:62千人→H27年度:69千人)	低い
②	コミュニティバスの運行	・地域巡回バスの運行を行い、公共交通空白地域の解消に努めました。また、新庁舎の完成を契機に、運行路線を新庁舎・那賀病院を中心とした路線に見直しを行い、利便性の向上に努めました。 ・岩出市と共同で紀の川コミュニティバスの運行を行いました。	地域巡回バス・紀の川コミュニティバス共に、利用者は減少傾向にあります。新庁舎完成を契機に行った、運行路線見直しにより、多少の持ち直しはありましたが、依然として減少しています。	低い
③				
④				
⑤				

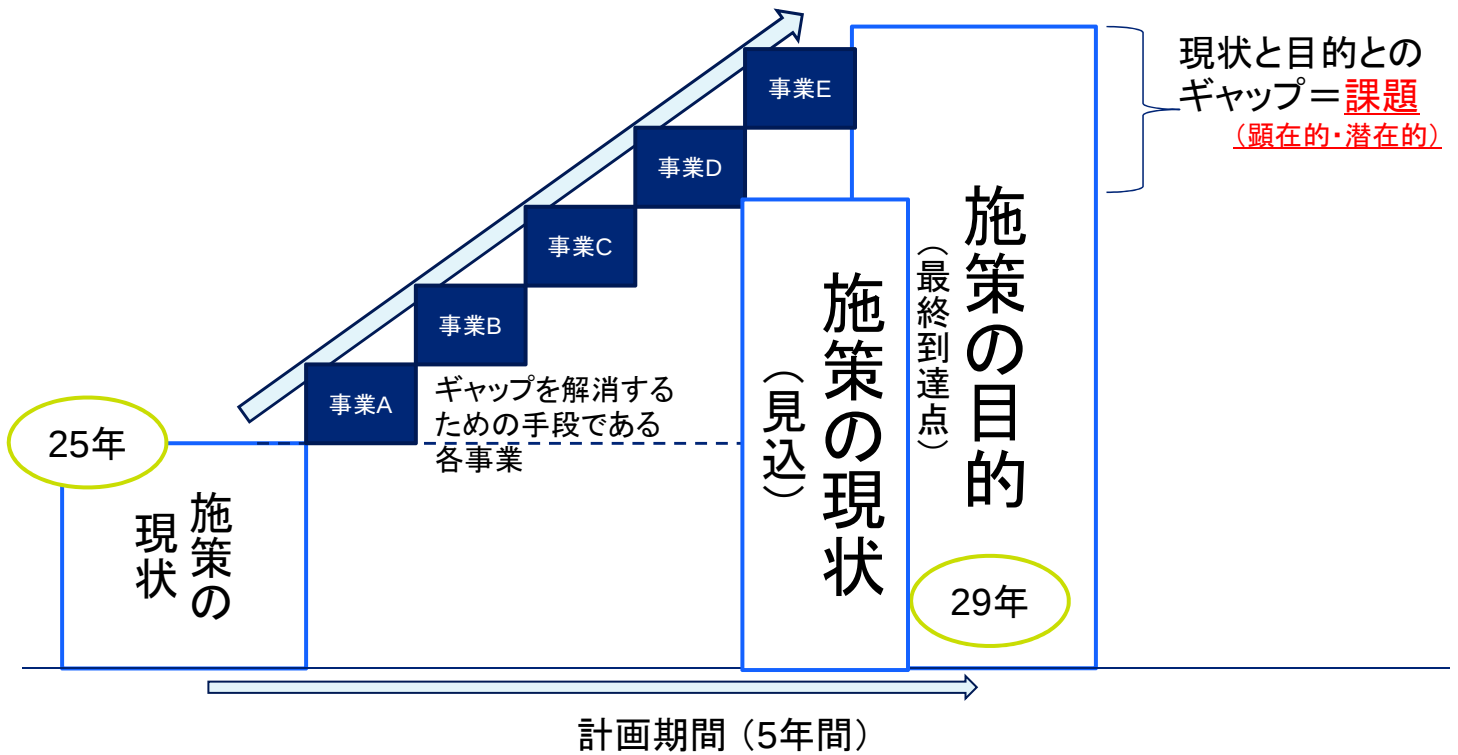
サンプル

5.施策の進捗度		
施策の進捗度	公共交通網が維持され、市民の移動サービスは提供できていますが、観光交流客に対しては、適正な移動サービスが提供できていない状況です。	総合評価
	設定した目標値は達成していませんが、インバウンド客の増加等の要因より利用者数は増加しました。	低い
	市民ニーズ等に対応した取り組みには課題が多くありますので、解決に向けての取り組みが必要になってきます。	

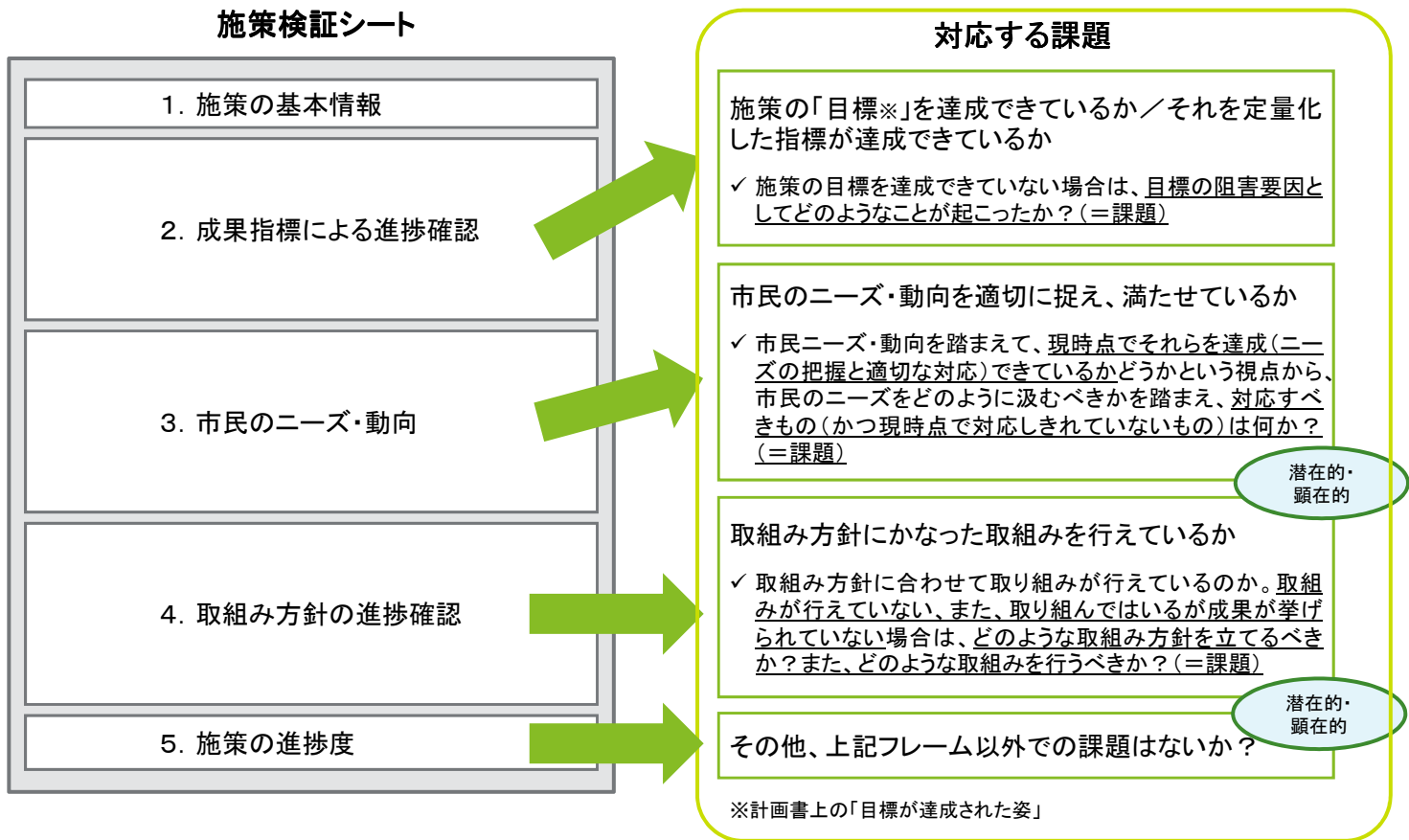
- 4.取り組み方針の進捗確認
- 第1次紀の川市長期総合計画後期基本計画の各施策の目標実現のための取り組みの「取り組み方針」を記載しています。
 - 各取り組み方針について、実際に取り組んだ内容を具体的に記載しています。
 - 各取り組み方針について、実際に取り組んだ結果としてどのような成果があったかを記載しています。
 - 「取り組み方針」「具体的な取り組み内容」「取り組みの成果」の記載内容を踏まえて、各取り組み方針が施策目標の達成に向けてどの程度進んだかを3段階(高い・普通・低い)で評価し、記載しています。
- 5.施策の進捗度
- 「1.施策の基本情報」「2.成果指標による進捗確認」「3.市民のニーズ・動向」「4.取り組み方針の進捗確認」までの記載内容を踏まえて、各施策の進捗度(総合評価)を3段階(高い・普通・低い)で評価し、記載しています。(※「施策目標の達成状況」「成果指標の達成状況」「取り組み方針の達成状況」の視点から総合評価結果の理由を記載しています。)

3-2.課題の考え方

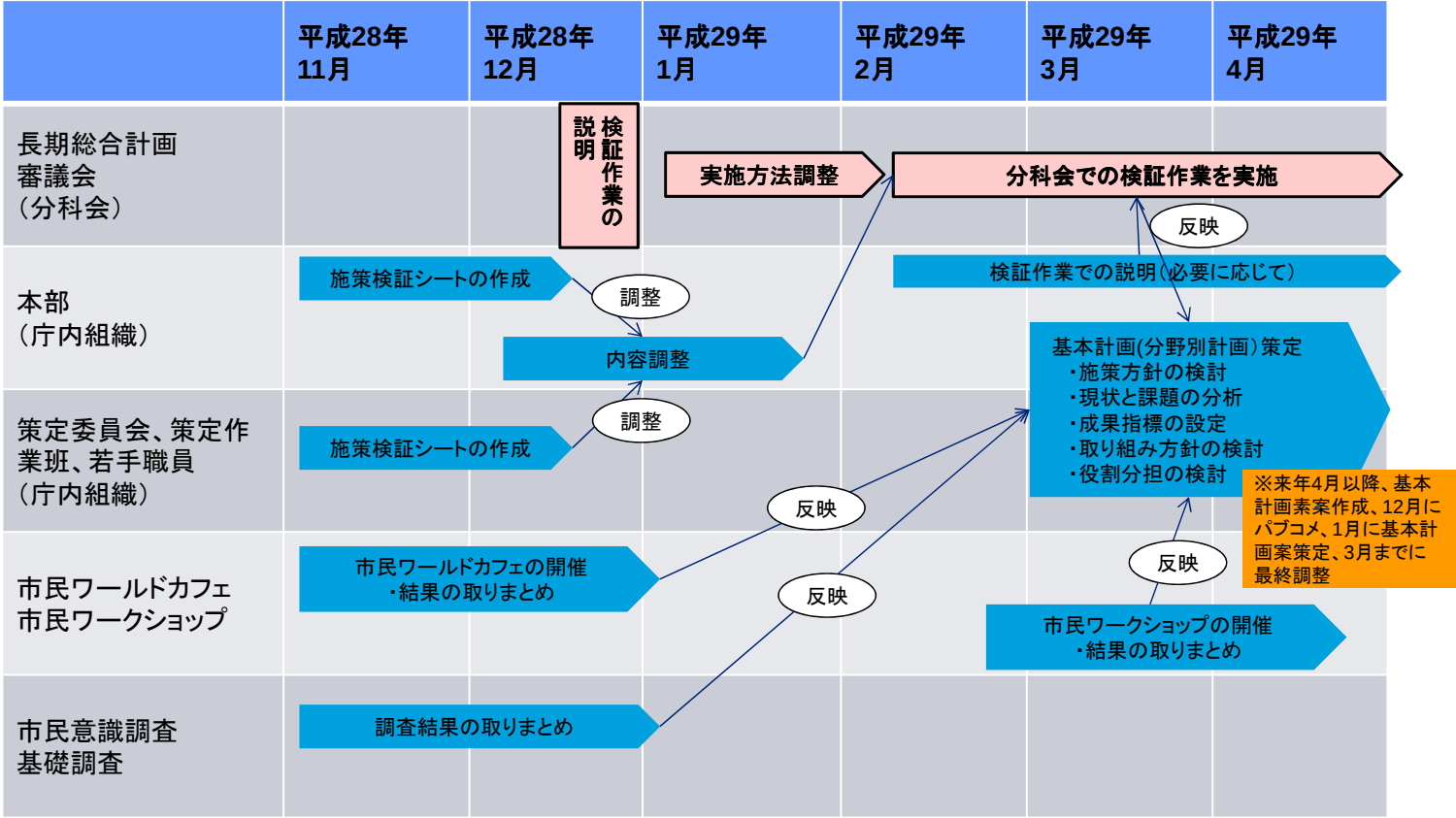
「施策の目的(最終到達点)」と「施策の現状」のギャップを認識することが課題の把握につながると考えます。



3. 施策検証シート
3-2. 各項目に対応する課題の抽出(例)



4. 今後の検証作業スケジュール



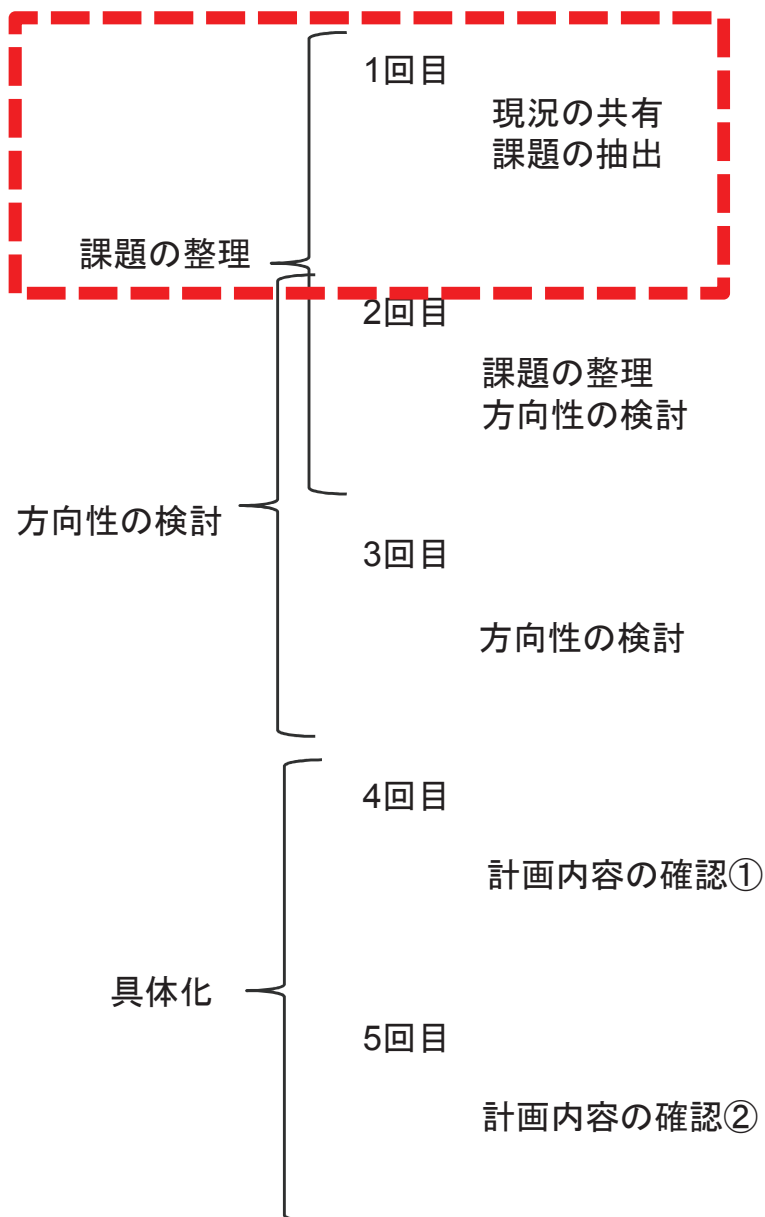
紀の川市長期総合計画審議会における「分科会」の開催

<第1回分科会の開催内容(案)と作業イメージ(案)>

【資料 1-1】

拡
散

収
束



■第1回分科会(第4回審議会)の作業イメージ

<事前調整>

- ① 分科会のグループ分け(事務局案:政策目標で3グループに→「協働」・「環境づくり」、「人づくり」、「基盤づくり」)
- ② 各分科会メンバー・座長の確定→各審議会委員に連絡
- ③ 事務局から庁内で実施、取りまとめた「施策検証シート」を各審議会委員に送付 **【現況の共有】**

<分科会当日>

- ① 審議会から、各座長の進行により分科会に分かれて実施
- ② 事前に送付、ご確認いただいた「施策検証シート」の内容を踏まえ、各分科会の割り当て分野(「施策目標」の単位)の市民ニーズや課題について話し合ってください(約40分) ※市民や各種団体など、様々な視点から意見を出してもらうことを想定しています。
- ③ 分科会から審議会に戻り、各分科会で抽出された課題を発表いただき、全体で共有(5分×3分科会=約15分) **【課題の抽出】**

<事後調整>

- ① 事務局から「事後意見聴取シート」を送付(分科会で伝えきれなかったことや担当した分野以外に関する意見をお聞かせいただくことを想定しています。)
- ② 事務局にて「事後意見聴取シート」を回収、分科会当日に抽出された課題と併せて、第2回分科会にむけて **【課題の整理】**として取りまとめ